坂本民主診療所

2019年11月号

事業所通信

〒520-0113　大津市坂本６丁目２５－３０　TEL：077-579-7121　http://shigamin.jp/sakamoto/

「ピロリ菌」をめぐる2つの大きな誤解

所長　今村　浩

ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）は、大腸菌のような形をしていて胃の粘膜に住み着いています。胃の出口を幽門（英語で「ピロルス」）といいますが、ピロルス付近にたくさん見つかるため、ピロリ菌という名前になりました。

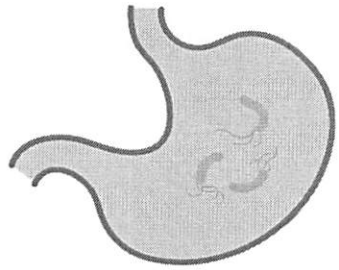
日本には約３，５００万人の人がピロリ菌に感染していて、胃に慢性の炎症を起こし、胃がんにつながることが判明したため、一躍有名になりました。胃がんの９９％はピロリ菌が原因とされ、胃がんの中でとても悪性度の高いスキラス胃がんなど特殊な胃がん以外は、ほとんどがピロリ菌が原因です。このため、２０１３年からピロリ菌を駆除する除菌が医療保険でできるようになり、抗生物質を一週間飲めば、９７％の方がピロリ菌を除菌できます。全国では、毎年約１５０万人もの方が除菌治療をされているといわれています。

しかし、ここからが大切です。ピロリ菌をめぐっては、大きな誤解が２つあるのです。

① ピロリ菌が胃がんの原因の大部分ですが、ピロリ菌に感染している人が、全員胃がんになる訳ではありません。ピロリ菌感染者のうち、胃がんになる人は何と０．５％。１０００人の感染者の内、たった５人です。あとの９９５人は、ピロリ菌に感染していても胃がんにはならないのです。

② ピロリ菌を除菌したら、即、胃がんにならないわけではありません。ピロリ菌を除菌した時点で、既に潜在的ながんが出来ていることがあり、除菌が成功した後に胃がんが見つかる例が多数報告されています。このため、除菌後も２年に一度は胃カメラ検査をし続ける必要があります。除菌したら、胃カメラ検査から解放されると思っている方も多いのですが、それは誤解です。除菌しても、除菌しなくても胃カメラ検査が、一生必要なことに変わりがないのです。この誤解で、全国では除菌したあと胃カメラを受けなくなって、手遅れの胃がんが多数発見され大問題になっています。除菌がかえって進行胃がんをつくってしまう事態が生まれています。

ピロリ菌の除菌で、確かに胃がんの発症は３～４割減りますが、万能ではないことを知って頂ければと思います。医師とよく相談して対応しましょう。



○ インフルエンザ予防ワクチンのご案内 ○

友の会会員：2,600円（今年度の会費納入必須）

一般：大人3,600円、13歳未満3,100円

１０月の太陽光発電量　**８２１kWh**　CO2削減量…　414Kg　杉の木の年間吸収量　約30本分